

にも影響を受けており、特に地価の動向は市街化のマイナス要因であると同時に、その先行指標であることがわかった。

四谷の地域性に関する地理学的考察

— 特に若葉町谷底低地を中心として —

井 関 五 月

(1) 目的

東京の市街地の町並みの変化は著しいが、東京駅を中心とする都心部と副都心新宿のほぼ中間に位置する四谷でも最近の変化は激しい。一方、台地上とそれを刻む侵食谷からなる山の手地域では坂を境として地域の分化がみられる事例が多いが、四谷もその典型的な一例といえ、四谷東南部の若葉町谷底低地では、周囲の台地上が旧山の手・高級住宅地域であるのに対して、路地裏に住宅が密集する特有の景観を呈している。

この研究ではこの谷底低地を中心とし、周辺台地上と谷底低地に認められる差、最近の変化の激しい四谷の中でのこの地域の変化の様子、さらにこの地域の形成とそれに作用した諸条件を明らかにし、東京の一部であるこの地域の地域性とその形成について考察する事を目的とした。

(2) 枠組

第一章「四谷の基本的性格」では四谷地区という地域を規定し、幾つかの資料によりここがどのような性格を持つ地域であるかを考察した。

第二章「台地上と谷底低地」では台地と侵食谷からなる四谷地区の自然環境、台地と低地両地域の歴史の変遷、更に都心業務機能の拡大に伴う最近の変化と現在でも認められる台地上と谷底低地の差を、何種類かの地図や資料により明らかにした。

第三章「若葉町谷底低地の地域性格」では、第二章で明らかにされた若葉町谷底低地の地域性をさらに詳しく述べ、それに加えてこの地域性の形成にどのような要素が作用したかを考察した。

(3) 結果

四谷地区では都心業務機能の拡大に伴って本格的な事務所用ビルの建設もみられるが、主要道路の内側は依然として住宅地域であり、共同住宅が卓越する職住近接型の住宅機能が顕著にみられる。

この四谷地区の中で台地上と谷底低地では様々の点で差が認められるが、これは江戸時代にすでにみられ、台地上は武家地から旧山の手・高級住宅地域として、一方、若葉町谷底低地は裏長屋の集中する町屋から労働者の居住する下級住宅密集地域としてそれぞれ発展してきた。

このように若葉町谷底低地は過去から一貫して周囲の台地上とは対照を示す特有の地域性を持った零細住宅密集地域として発展してきたが、これは谷底低地という地形条件と東京の市街地の中での位置的条件、さらに交通との関係が加わり、これらが互いに結合しあって様々の条件を生み出し、この地域に作用を続けてきた結果であると考えられる。